

1人1台端末を活用した授業改善

～「協働的な学び」「個別最適な学び」の実現を目指して～

1 研究主題設定の趣旨

「GIGAスクール構想」とは

- ・「日本のすべての小・中学校をインターネットの高速回線につないで、すべての児童生徒に1人1台のネットワーク型コンピュータを無償貸与するというICT環境の整備の施策」のこと
- ・「GIGA」(Global and Innovation Gateway for Allの略)は、「すべての人にグローバルで革新的な入口を」という意味で、「誰一人取り残すことなく子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性をはぐくむ教育ICT環境の実現」を目指す施策であるとされる。

「GIGAスクール構想」が導入された背景

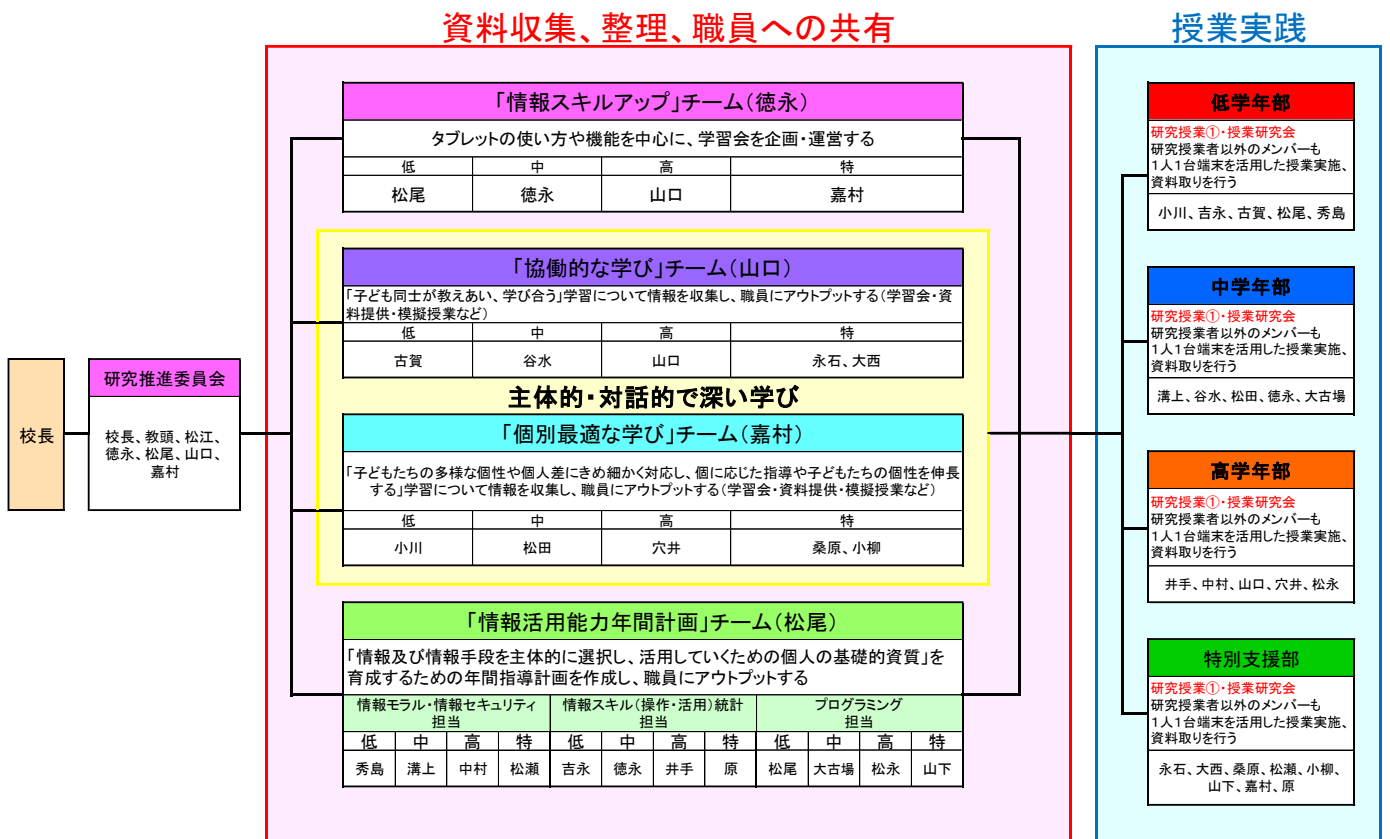
- ・OECDによる2018年のPISA調査を受検した日本の高校生の順位が大幅に低下した。これに対し、文部科学省は「コンピュータ操作スキルの未成熟が読解力低下に影響した」という考察を出した。
- ・「GIGAスクール構想」自体は、2019年に政府から提案されたものだが、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校措置や家庭での在宅リモート学習の推進を受け、1人1台端末の貸与が前倒しになり、補正予算が組まれることによって、2021年3月内にすべての小・中学校に配布されることとなった。

上記の通り、GIGAスクール構想の前倒しを受け、1人1台端末が全国的に整備されることから、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す授業づくりが急務となっている。

本校では、昨年度12月に1人1台端末「Chromebook」が導入された。それ以前にも1人1台端末が配備されていたこともあり、児童にとって端末は非常に身近なものである。しかし、その機能の高さと多様さに影響され、「ただ端末を楽しく使って終わる授業」「どんなめあてを達成するのが不明確な授業」になってしまうことも少なくなかった。あくまでも目標を明確にし、より良い問いを考え、より良い場において端末を有効に活用することが大切である。

今回の研究では、キーワードとして「主体的・対話的で深い学び」を掲げ、「何を学ぶのか」だけでなく、「どのように学ぶか」について重視し、授業改善を行っていく。具体的には、「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現に向け、「児童がインプットしたことをアウトプットし、学ぶことを楽しいと実感できる授業」「意欲的に学び続け、自分の得意を伸ばして不得意を補充することができる授業」について考えていく。今回の研究では、児童だけでなく、教師自身が「主体的・対話的で深い学び」ができるようにしたい。

2 研究組織



3 研究内容

(1) 1人1台端末を活用した授業改善に関する情報収集、整理、職員への共有を行う。

○「情報スキルアップ」チーム(責任者: 徳永)

タブレットの使い方、機能を中心に学習会を企画・運営し、教職員の指導に関するスキルアップを図る。

○「個別最適な学び」チーム(責任者: 嘉村)

「子どもたちの多様な個性や個人差にきめ細かく対応し、個に応じた指導や子どもたちの個性を伸長する」学習について、情報を収集し、職員にアウトプットする。

(学習会、資料提供、模擬授業など)

○「協働的な学び」チーム(責任者: 山口)

「子ども同士が教え合い、学び合う」学習について情報を収集し、職員にアウトプットする。(学習会、資料提供、模擬授業など)

○「情報活用能力年間計画」チーム(責任者: 松尾)

・「情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質」を育成するための年間指導計画を作成し、職員にアウトプットする。

・「情報モラル・情報セキュリティ」「情報スキル(操作・活用)統計」「プログラミング」の3つの担当に分かれて活動する。

(2) 「協働的な学び」「個別最適な学び」の実現に向けた授業実践を行う。

○各部(低学年部、中学年部、高学年部、特別支援部)で、1回以上の研究授業、授業研究会を行う。

○研究授業者以外のメンバーも、1人1台端末を活用した授業を実施し、資料取りを行う。

4 期待される効果

- ・職員をいくつかのチームに分けて研修を行うことで、職員同士の情報活用能力が向上する。また、チーム主催の勉強会を行うことで、職員の情報教育に対する意識が向上する。
- ・8月までに研修したことを生かし、9月以降に各部で研究授業や授業研究会を行うことで、1人1台端末の活用についての成果と課題が明確になる。
- ・「協働的な学び」「個別最適な学び」の実現に向けた授業の実践を繰り返すことで、学習指導要領に沿った学力が向上する。また、教科や領域、目的によって1人1台端末をどのように活用していくと良いか整理・分類することができる。
- ・「情報活用能力年間計画」を作成し、実践をしながら修正を加えていくことで、「情報モラル・情報セキュリティ」「情報スキル」「プログラミング」の指導の系統性が明確となり、児童の情報活用能力が向上する。

5 年間予定

月	日	曜	内容
4	5	月	研究推進委員会
	14	水	研究の構想について(主題、組織、内容など)
			勉強会①(「情報スキルアップ」チーム主催)
5			グループ協議(テーマ:主体的・対話的で深い学びとは)
			児童の実態調査、教師の実態調査作成
			児童の実態調査、教師の実態調査実施(1回目)
			勉強会②(「情報スキルアップ」チーム主催)
6			各チームでの話し合い①
			各チームでの話し合い②
			勉強会③(「協働的な学び」チーム主催)
			勉強会④(「個別最適な学び」チーム主催)
7			勉強会⑤(「情報活用能力年間計画」チーム主催)
			勉強会⑥(「協働的な学び」チーム主催)
			勉強会⑦(「個別最適な学び」チーム主催)
8			講師招聘による研修会
			勉強会⑧(「協働的な学び」チーム主催)、指導案検討(各部)
			勉強会⑨(「個別最適な学び」チーム主催)、指導案検討(各部)
			勉強会⑩(「情報活用能力年間計画」チーム主催)、指導案検討(各部)
		勉強会⑪(「情報活用能力年間計画」チーム主催)、指導案検討(各部)	
9			研究授業、授業研究会①(中)
10			研究授業、授業研究会②(高)
			研究授業、授業研究会③(特)
11			研究授業、授業研究会④(低)
12	10	金	ICTオープンデー
			児童の実態調査、教師の実態調査実施(2回目)
1			研究のまとめ 作成
2			研究のまとめ 完成
3			次年度計画

〈各チームの年間の活動計画〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
研究推進委員会	研究の構想について(主題、組織、内容など)	話し合い	全体研 (グループ協議) 児童の実態調査 教師の実態調査 作成、実施(1回分)			研修会 (講師 招聘)			児童の実態調査 教師の実態調査 実施(2回分)					
「情報スキルアップ」チーム		勉強会①	勉強会②	各チームでの話し合い	各部分かれて指導案検討		研究授業・授業研究会(中)	研究授業・授業研究会(高)	研究授業・授業研究会(特)	ICTオーブンデー	研究のまとめ 作成	研究のまとめ 完成	次年度計画	
「協働的な学び」チーム						勉強会③	勉強会⑥	勉強会⑧	研究授業・授業研究会(中)	研究授業・授業研究会(高)	研究授業・授業研究会(特)			
「個別最適な学び」チーム						勉強会④	勉強会⑦	勉強会⑨	研究授業・授業研究会(中)	研究授業・授業研究会(高)	研究授業・授業研究会(特)			
「情報活用能力年間計画」チーム						勉強会⑤		勉強会⑩	研究授業・授業研究会(中)	研究授業・授業研究会(高)	研究授業・授業研究会(特)			
							勉強会⑪	研究授業・授業研究会(中)	研究授業・授業研究会(高)	研究授業・授業研究会(特)				

《参考文献》

- (1) 田中博之 『GIGAスクール構想対応 実践事例でわかる！タブレット活用授業』 2021年3月
- (2) 片岡巖 『今すぐ使える！Google for Education』 2020年10月
- (3) 棚橋俊介・西久保真弥 『GIGAスクールはじめて日記』 2021年4月